

ボランティアの心

叱ったA君と仲直り

その日は学校で音楽会があり、なかよし学級も少しざわついていました。担任の先生がドリルを4年生の男児、A君の前に差し出し、ボランティアの私はA君の対面にサポートのために座った。2枚進んだ所で「ここ違っているよ。直そうね」と優しく言った。その瞬間、筆箱が私の顔をめがけて飛んできた。すばやくよけたものの、無意識に「A君！お顔に物を投げてはいけません！」とA君の両手を掴み、大声で叱った。

次の瞬間、A君が頭で、私の上あごを強打した。（痛い！）じっと我慢して、手を抑え続けた。A君は観念して、ドリルを済ませ、その日の授業を終えた。私はたまたまマスクをしていたが、帰宅して鏡を見たら、血が噴出しひどい口になっていた。お医者さんに行って全治1週間の診断を受けた。



なかよし学級（特別支援）のボランティアを始めて5年になるが、こんな事は初めてだった。私の怪我もひどかったが、それ以上に大きな声で、叱ってしまったことを恥じた。「逃げればよかったのでは？」「彼はどんなに傷ついたかしら？」などと、後悔ばかりで、胸が痛んだ。障害を持った子に本気で怒って良いの？ 苦しくてたまらず、次の日、教会に行った。悔い改めるとい言葉の原語は方向転換です（あっ、方向転換か...）牧師さんの言葉に少し気が楽になった。

5日後、勇気を出して学校に出かけた。なかよし学級に着くとA君が飛んできて「この間はごめんなさい」と頭をちょこんとさげた。私は思い切り抱きしめ、「A君こそ頭、怪我していなかった？」と聞いた。「ボクは大丈夫！」とニコニコ顔で言ってくれた。彼はいやなことがあると、直ぐに切れ、つばを吐いたり物を投げるが多かったが、その日から態度が一変。私の膝の上に乗ってきたり、甘えたりするようになった。あれから、2か月。今まで以上に子供たちとも、先生方とも、より近づけたような気がする。これもA君のお陰かな。=写真は子供たちとの校外学習（福祉13期 南形 公子）

講演「子供との接し方」が好評

グループわ主催のスキルアップ講座「子供との接し方」の講演が1月18日、カレッジの学習室であり、学習支援活動をしている会員ら50人が熱心に耳を傾けました。講師はソーシャルワークが専門の神戸常盤大・野尻紀恵先生(写真)。



子どもを粗末にしない共育 をキャッチフレーズに、子供のパワーを生かし、地域と一緒に活動しよう、と提唱しています。

「虐待・いじめ・暴力行為・発達障害の子の急増は、子供たちが小家族と学校の中だけで生活し、社会（地域）で学ぶことが少ないことも一因。周りの大人が見守ってやる仕組み、S(ソーシャル)S(スキル)T(トレーニング)が大切です。健全な社会は行政・企業・NPOの3者が、それぞれの立場から貢献することで築かれます。

アメリカでも、学校へ地域の人たちが入って活動

するようになったと聞いています。日本がモデルになっているのです。昔遊びのようなものも大切で、なんでも流行のものがいいわけではない。迎合は必要ありません。グループわのようなNPO、シルバーパワーは、大いに期待されているのです」とカレッジ生の奮起を促していました。

里山整備 機材など搬入

グループわが進めているカレッジ北側の里山整備事業で、簡易炭焼き装置など各種機材の搬入が始まりました。3月25日にはベンチセットや野鳥説明看板・野鳥



観察壁も設置され、伐採作業に使うチェーンソーや刈払機の「安全講習」（写真）も行われています。4月からはいよいよ実際に作業が始まります。里山づくりを手伝ってやろうという方、ぜひ参加をお願いします。お問い合わせは、グループわ本部（Tel 743-8101）まで。